

Efficacy and safety of three new oral antiviral treatment (molnupiravir, fluvoxamine and Paxlovid) for COVID-19 : a meta-analysis

Wen W et al. Ann Med 2022

doi : 10.1080/07853890.2022.2034936.

全文 URL: <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/07853890.2022.2034936>

COVID-19 の 3 種の経口薬（モルヌピラビル、フルボキサミン、パクスロビド）の有効性と安全性：メタ解析

これまで多くの抗ウイルス薬が COVID-19 に対して良好な治療効果を示している。しかし、簡便に使用できる経口薬の有効性と安全性についてはまだ知見が乏しい。

著者らは、COVID-19 患者における 3 種類の新規経口薬（モルヌピラビル、フルボキサミン、パクスロビド）の死亡率、入院率、および有害事象についてメタ解析を行い、比較検討した。PubMed、Web of Science、EMBASE、Cochrane Library などの医科学データベースから関連論文を検索し精査した。

合計 8 編の実薬 vs. プラセボの臨床試験（モルヌピラビル 3 編、フルボキサミン 4 編、パクスロビド 1 編）がメタ解析の対象となった。実薬群では、2,440 名の COVID-19 患者のうち 54 名が死亡もしくは入院し、プラセボ群 2,348 名では 118 名が死亡もしくは入院となった。実薬群のプラセボ群に対する死亡もしくは入院の複合イベントのオッズ比（OR）は、0.33（95%信頼区間（95%CI）0.22-0.49）であった。死亡、入院の実薬群のプラセボ群に対する OR は、それぞれ 0.41（95%CI 0.26-0.64）、0.20（95%CI 0.09-0.43）であった。また、実薬群は、プラセボ群と比較して有害事象の発生を増加させなかった。したがって、著者らは、新規経口薬 3 種（モルヌピラビル、フルボキサミン、パクスロビド）は COVID-19 患者の死亡および入院リスクを低下させる効果が示された、と結論している。

要約作成者のコメント：

今回紹介した論文で、著者らは新規経口薬 3 種（モルヌピラビル、フルボキサミン、パクスロビド）別のサブグループ解析も行っています。モルヌピラビル 3 編、フルボキサミン 4 編、パクスロビド 1 編と対象となった臨床試験の数は少ないのですが、死亡もしくは入院の複合イベントの OR は、それぞれ 0.22（95%CI 0.10-0.48）、0.45（95%CI 0.10-0.48）と報告されています（パクスロビドは 1 編のみなのでメタ解析不可）。令和 4 年 4 月 1 日現在、3 種の経口薬のうち、わが国で COVID-19 治療薬として透析患者に使用可能な承認済のものはモルヌピラビルのみです。

COVID-19 感染状況が長期化している現在、簡便に使用できる経口薬のエビデンスの更なる蓄積が求められますが、参考になる文献と考え紹介致しました。

要約作成者：昭昭和大学 統括研究推進センター /
医学部内科学講座腎臓内科学部門

長谷川 毅